



園長便りひがし

令和6年12月2日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

お祭りへの参加ありがとうございました。

生協病院祭りに年長さんが参加し、東大宮コミュニティセンター祭りには、年頭さんが参加し、年中さんの作品も展示されました。そして中央市場の秋まつりには全園児で参加しました。参加した子ども達を見てみると緊張することなく、堂々とした態度で踊ったり歌を歌ったりしていました。とてもいい経験になったと思います。ご家族の皆様、たくさんのお応援ありがとうございました。



『ブックスタート』

「ブックスタート」は、1992年にイギリスのバーミンガムで始まりました。とってもユニークな政策で、乳児検診の時に赤ちゃんに絵本をプレゼントするというものです。そのコンセプトがまた、とてもシンプルで、「赤ちゃんの体を育てるためにミルクが必要なように。赤ちゃんの心を育てるためには、絵本を読み聞かせることと、話しかけることが必要だ」というものです。

イギリスでこういうことがありました。小学校入ってきた子どもに教科書を渡すとそれが本であることを認識できません。教科書をブーメランのように投げたり、かじったり、舐めたりするのです。読むという認識できないというのです。こういう子どもを矯正するのは極めて困難なのだそうです。そうならないためにはどうしたらいいかと考えて、行き着いた政策が「ブックスタート」だったのです。

数年後、驚くべきデータが報告されました。ただ絵本をプレゼントするだけなのに、プレゼントされた子とされなかった子とでは、小学校に入る頃には明確に学力の差が表れるということです。それ以後、イギリスの90%以上の自治体に「ブックスタート」が広まり、現在も続いています。当時のイギリスのブレア首相がこう言っています。「7歳の子どもの読書量が20年後のイギリスの存在価値を決める。」

テレビやゲームを見るだけでは思考力は育ちません。なにもたくさん本を読めというのではありません。朝10分間の読書をすると目に見えて問題が減ってきたとか、記憶力テストの前に2分間音読をさせるだけで結果が2割近くよくなるとか、そういう事例はたくさん報告されています。子どもたちは少し本に触れる、少し活字に触れるだけで大きく変わるのです。大人は子どもたちの読書環境を少しでもよくなるように考えていく必要があると思います。

(前北海道恵庭市長の記事より)

宮崎ひがし幼稚園では、毎日読み聞かせをしたり、紙芝居を読んであげたりしています。子ども達は目をキラキラ輝かせながら本の世界にのめり込んでいきます。本園ではできるだけテレビやビデオは見せないようにしています。どうぞ、ご家庭でも時間を見つけてお子様に読み聞かせをしてあげてください。



